総合的学習プログラムのマネジメントに関する研究
～SSH（スーパーサイエンスハイスクール）を対象として～

1240433　黒川凜太郎
指導教員　土屋 哲

研究背景

総合学習・探求学習の効果的な実施は、一般の教科科目に比べて学校や教員の裁量による部分が大きいため、教育プログラム当初の計画のみならず、プログラムを実施するなかで生徒のパフォーマンスを観察しながら、適宜改善していくことが必要と考えられる。しかし、総合学習・探求学習を効果的に行うにあたっては、教師に十分な準備時間が無いため満足のいく内容の授業を行うことができていないとの指摘がある。

研究目的

本研究では、学校や教員が総合学習・探求学習プログラムをどのように実施し、内容の改善に努めているのかを調査して、課題を整理するとともに、学習を効果的に実施するための仕組みのあり方について検討する。

研究方法

大分県立日田高等学校が取り組むスーパーサイエンスハイスクール支援事業を対象として、同校の実施報告書、および教員インタビューから得られた情報をもとに、組織学習論の観点から考察・検討をおこなった。

分析結果

実施報告書から生徒の変容、教員の変容を整理した。PDCA サイクルの実践から、組織の「シングル・ループ学習」が機能していることが見て取れた。その一方で、予算や時間といった資源の制約が、組織自らの思考の前提や枠組みを見直した上で計画を修正し、行動プランに落とし込む「ダブル・ループ学習」を鈍くしている可能性が窺われた。

考察・結論

組織のダブル・ループ学習を阻害する要因を、(i)予算のように変更が困難なもの（新たなリソースの投入を必要とするもの）、(ii)教員間の意識の格差ように変更自体は可能なもの（新たなリソース投入は必要ないもの）、の２つに分類して考えると、(i)、(ii)がそれぞれ直接的にダブル・ループ学習に作用する以外に、「(i)から(ii)への作用」もあり、要因を階層的に記述できることを指摘した。これを踏まえた上で、学習効果を高めるために、阻害要因を克服する案について検討した。